

令和3年度（2021年度）の活動の内部評価

【事業目標1】

琵琶湖の魅力を深く掘り下げ、世界に紹介する

→目標の内容：琵琶湖研究を中心とした湖と人間の研究が推進される

【重点事業】

1-1. 世界有数の古代湖としての琵琶湖の価値を高める研究計画の実施

(資料：年報p15-20)

- ・総合研究 1件：過去150年間の琵琶湖とその集水域の環境変遷の解明
- ・共同研究 11件
- ・専門研究 30件
- ・外部資金等のプロジェクト 43件
(うち科研費 24件。特別研究員のものも含む。分担者などのものも含む)
- ・特別研究員の受入 19件

【事業目標 1】

琵琶湖の魅力を深く掘り下げ、世界に紹介する

→目標の内容：琵琶湖研究を中心とした湖と人間の研究が推進される

【重点事業】

1-2. 研究成果を国内外に発信し、国内外の研究者が参加する研究を推進する

- ・ 学術論文 32件、 専門分野の著述 32件（年報p22-25）
- ・ 「琵琶湖博物館研究調査報告」のJ-Stageでの公開
- ・ 琵琶湖博物館博物館ウェブページでの研究調査情報公開に向けたページの整理

The screenshot shows the J-STAGE website interface. At the top, there are navigation links for '資料・記事を探す', 'J-STAGEについて', 'ニュース&PR', and 'サポート'. There are also links for 'サインイン', 'カート', 'JA', and a search icon. The main header displays '琵琶湖博物館研究調査報告' and 'Online ISSN : 2436-665X'. Below the header, there are tabs for '資料トップ', '巻号一覧', and 'この資料について'. A search bar is present with the text 'このジャーナル内を検索する' and buttons for '検索', 'OR 閲覧', and '閲覧'. There are also dropdown menus for '34 巻' and '号', and a 'ページ' dropdown.

巻号一覧



最新号

選択された号の論文の5件中1~5を表示しています

メタデータをダウンロード

すべての抄録を表示する

< < 1 > >

「烏丸地区深層ボーリングコアの年代と堆積相」

本研究調査報告の趣旨

里口 保文

2021 年 34 巻 p. 5-6

発行日: 2021 年

公開日: 2021/11/04

DOI https://doi.org/10.51038/rilbm.34.0_5

研究報告書・技術報告書 フリー

PDF形式でダウンロード (387K)

34 巻 (2021)

33 巻 (2021)

32 巻 (2020)

31 巻 (2018)

30 巻 (2018)

29 巻 (2016)

28 巻 (2016)

琵琶湖岸 烏丸コアの堆積相解析と堆積環境の変遷

The screenshot shows a navigation menu for the museum website. It includes a search bar with a '検索' button. The menu items are: 'ウェブ図鑑', '展示', 'イベント', '利用案内', '活動に参加', '琵琶湖博物館とは', and '学ぶ・調べる'. Each item has a right-pointing arrow. The '学ぶ・調べる' item is highlighted in a dark blue box.

博物館ウェブページ「学ぶ・調べる」

J-Stage

【事業目標 1】

琵琶湖の魅力を深く掘り下げ、世界に紹介する

→目標の内容：琵琶湖研究を中心とした湖と人間の研究が推進される

【重点事業】

1-3. 研究の質を高める研究環境の整備

- ・令和4年度に電子顕微鏡の更新
- ・今後の備品更新リストの作成と県庁担当課との協議
- ・研究専念時間の設定についての検証。

→研究できたとの回答が多い中で、事業的に問題が明確化された箇所がある。

事業目標 1 の今後の課題と方針

次の総合研究の企画について、議論ができていない。現在進めている総合研究の成果や共同研究など次の総合研究への芽を考え、また、外部研究者の協力なども含めた議論をしながら企画を行う必要がある。

研究時間の確保については、専念時間を基本にしながら、円滑な事業実施とも合わせてよりよい方法を検討・改善していく必要がある。

【事業目標2】

資料を未来に遺し、どこからでも使えるように整備

→整った環境で保管されている湖と人間の資料・情報がどこからでも使える

【重点事業】

2-1. 標本・資料の管理体制の強化

- ・過去の事故歴、照明の故障についてのとりまとめ、修理優先順位について検討。
- ・水漏れがあった収蔵庫について原因の特定と修繕の実施

【事業目標2】

資料を未来に遺し、どこからでも使えるように整備

→整った環境で保管されている湖と人間の資料・情報がどこからでも使える

【重点事業】

2-2. 標本・資料の整理の推進と公開によるデータベースの充実と利用促進

- ・未整理資料の整理・登録の実施。（年報 p4-7）
- ・考古資料データベースの構築（整理・登録・公開のための基盤づくり）

	登録資料数	収蔵概数	2021年度登録数	2021年度受入総数
地学	96,704	118,470	1,339 736	1,594
動物	192,464	368,013	1,015	615
植物	90,609	202,702	800	24
微生物	13,132	74,660	78	78
水族（生体）	22,059	26,102	19,957	22,375
考古	1,004	1,473箱と875	0	0
歴史	292	239	0	0
民俗	6,795	6,930	0	5
環境	0	1,515	0	0
図書	150,962と 7,178タイトル	156,000	2,288	4,002
映像	113,813	505,217	0	19
合計	687,834と 7,178タイトル	1,460,723と 1,473箱	25,477	28,712

【事業目標 2】

資料を未来に遺し、どこからでも使えるように整備

→整った環境で保管されている湖と人間の資料・情報がどこからでも使える

【重点事業】

2-3. ICT利用による博物館資料について画像を中心とした資料情報の公開

- ・画像データベースの一部を新たに公開
- ・一部の登録資料写真の撮影と登録（緊急雇用対策予算による）

事業目標 2 の今後の課題と方針

補修改善が必要な箇所調査を行ったが、そのための予算獲得を進める必要がある。資料は、未整理資料も多く、多くの寄贈資料もあるため、資料整理と資料の情報公開を着実に進めることが重要。

【事業目標3】

みんなで学びあう博物館へ

→利用者が実施者になった多様な交流事業と情報交換が行われる

【重点事業】

3-1. 多くの人に関わる多様な交流事業を実施する

- ・交流イベントや地域連携のこれまでの傾向について集計をし、現状把握をした

3-2. 博物館利用・参加方法の制度的幅を広げる

- ・他館の登録制度の情報収集を行った

3-3. 体験を重視した琵琶湖学習ができる教員の養成

- ・博物館利用をする学校教員にアンケート調査を行い、今後の支援についての検討を始めた。

事業目標3の今後の課題と方針

重点事業はそれぞれ今後の検討のための情報収集を実施し、それらを使った今後の実施に向けた検討をはじめたところであり、今後はその具体的な事業の可能性について検討と、試験的な実施を行っていく必要がある。

【事業目標4】

もっと使いやすい博物館へ

→湖と人間の最新情報が常に得られ現場への興味をもつ人々が増える

【重点事業】

4-1. 誰もが楽しみ学べる展示手法とガイド機能の強化

- ・ポケット学芸員の内容充実により、読み上げソフトとの併用で音声ガイドの箇所を増やした。多言語化については、今後の検討項目

【重点事業】

4-2. 「観る」展示から「観る+使う」展示への成長

- ・「おうちミュージアム」コンテンツ、パネルの基礎になった論文PDFに接続できるQRコードを設置。設置箇所をさらに検討。

【事業目標4】

もっと使いやすい博物館へ

→湖と人間の最新情報が常に得られ現場への興味をもつ人々が増える

【重点事業】

4-3. 社会の変化や研究成果を反映させた展示の成長

- ・最新情報を踏まえた展示更新（年報 p31-37）
A：地域の人びと（2件）、新着標本、B：学芸員のこだわり展示（7件）
C：各コーナー（5件）、水族：各コーナー（19件）
D：各コーナー（34件）、E：各コーナー（41件）
- ・企画展示およびギャラリー展示の実施（年報 p41-51）
第29回企画展示「湖国の食事」、ギャラリー展示4件、トピック展示7件
- ・活動が来館者に見える場のオープンラボでの活動の推進（年報 p38-41）。137件
- ・1期目リニューアルを行ったC・水族展示室を中心に、更新計画をまとめた。



企画展示「湖国の食事」

【事業目標4】

もっと使いやすい博物館へ

→湖と人間の最新情報が常に得られ現場への興味をもつ人々が増える

【重点事業】

4-4. ICTを利用した琵琶湖の魅力とその入口としての博物館の紹介

- ・ 来館者用サイトと研究・学習用サイトを統合し、学習目的でのアクセス機会を増やす工夫をした。
- ・ Youtube「びわこのちからチャンネル」を創設し、展示概要、各展示室の360度動画、研究紹介動画を4本アップした。研究紹介動画は、フィールドへ誘う内容のものを中心に作成した。

事業目標4の今後の課題と方針

最新情報への更新計画とその実施やICTを使った情報発信のコンテンツ作成計画についての検討が重要である。



【事業目標5】

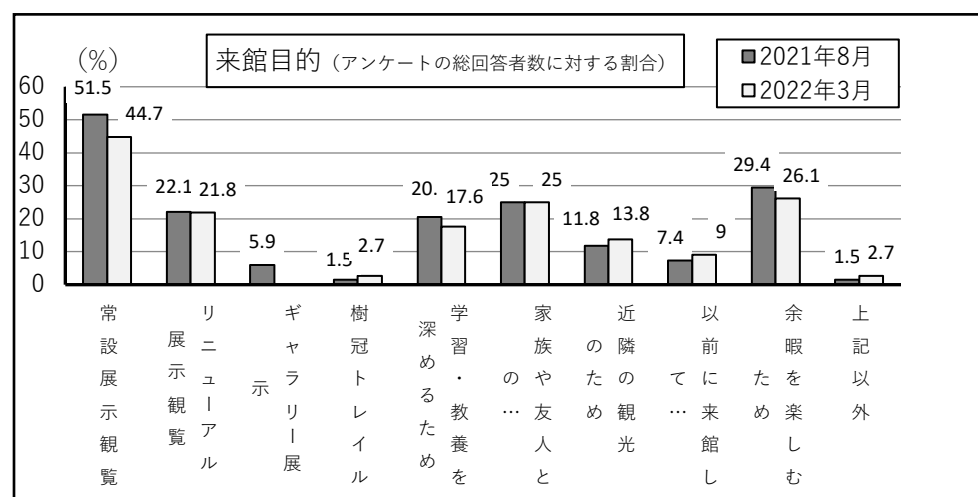
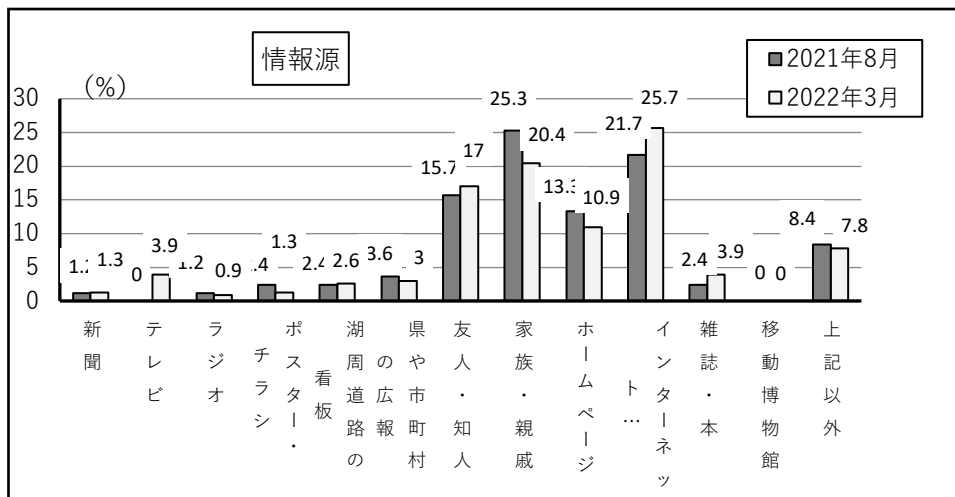
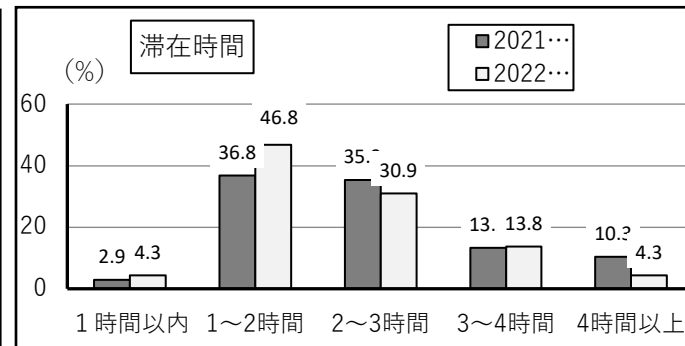
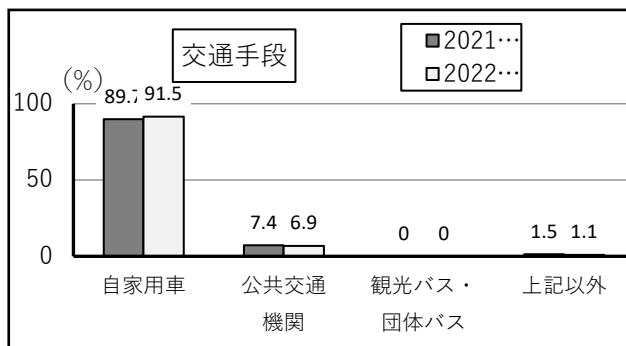
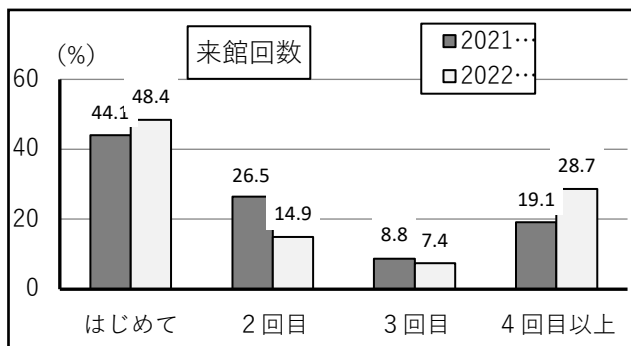
より多くの人々が利用する博物館へ

→利用しやすい場所で人びとの活動が行いやすくなる

【重点事業】

5-1. 双方向の広報や各種調査による評価方法の確立と事業への反映

- ・来館者アンケートなどを継続的に実施し、リピーターが現状分析を行った（年報 p95-99）



【事業目標5】

より多くの人を利用する博物館へ

→利用しやすい場所で人びとの活動が行いやすくなる

【重点事業】

5-2. 来館しやすい環境の整備

- ・キャッシュレス・チケットレスシステムを導入した
- ・予約システムはコロナ禍終了後には継続しないと判断した

事業目標5の今後の課題と方針

アンケート調査を継続しながら、各事業における利用者の意見の集約と事業へのフィードバックの実施が課題。



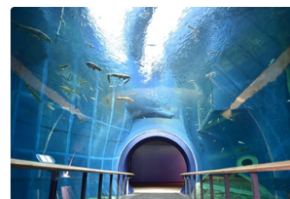
カード払い



[WEBチケットを購入済みの方はこちら](#)

重要なお知らせ
入館は公式HPより事前予約が必要です。

チケット



滋賀県立琵琶湖博物館 電子前売り常設展示観覧チケット

大人	800円
高校生・大学生	450円

チケット内容

常設展示観覧券（通常：大人800円、高校生・大学生450円）

※小学生・中学生、身体障害者手帳をお持ちの方、及び滋賀県在住の65歳以上の方は無料です。
※休館日：毎週月曜日（休日の場合は開館）

キャンセルポリシー

キャンセル・返金・変更はお受けしておりません。

[チケット詳細を確認する](#)

[チケット購入に進む](#)

【事業目標6】

博物館の活動を安定して継続する

→安心感がある場所で安定的に継続した活動ができる

【重点事業】

6-1. 老朽化した施設の改修と現状での施設に合わせた災害への備え

- ・点検や修繕等の実績から要改修個所のリストアップを行った。優先度の検討は未着手。
- ・危機管理項目ごとに既存マニュアルを収集・整理し、館内で共有した。

6-2. 安定した活動基盤を確保する仕組みづくり

- ・リニューアル後の支援の受入制度の試行を継続中だが、仕組みづくりはつなげられていない

事業目標6の今後の課題と方針

施設の修繕の具体的な調査とそれら情報から優先順位の検討を行う。

社会状況をみながら支援の受入制度など、継続的な活動が可能な仕組みづくりの検討を実施していく必要がある。